

**出演者
プロフィール**

プロフィール

ニコラス・ペイン

Nicholas Payne

1968年にコヴェント・ガーデンに入る（David Webster と Georg Solti 時代の最後の2年間）。1970年代前半にアーツ・カウンシルに所属。その後、ウェルシュ・ナショナル・オペラで財務を担当し、オペラ・ノースでは、運営責任者をつとめる。

さらにロイヤル・オペラハウス・コヴェント・ガーデンでディレクターを、イングリッシュ・ナショナル・オペラでジェネラル・ディレクターを務めた。

2003年からヨーロッパのオペラ団体、オペラ劇場やオペラ・フェスティバルを会員とする組織、オペラ・ヨーロッパのディレクターを務めている。

プロフィール

ジョン・シーキングス

John Seekings

1979年にロイヤル・オペラハウス（以下 ROH）に入り、1990年には技術監督に就任。

オペラ以外にもロイヤル・バレエ及びバーミンガム・バレエ（旧サドラーズ・ウェルズ・ロイヤル・バレエ）のツアーも担当した。ツアー、テレビなど新たな技術導入の際の運営責任者として、ROH の改革にかかわる。

1995年以降、1999年のリニューアル・オープンまでの ROH の再構築を指揮した。

1997年からは技術、制作、設備、顧客サービス、IT、広告などあらゆる分野の運営ディレクターの任についている。

企画戦略、危機管理も担当している。ROH 関連数社の運営にも携わっている。TTTS Ltd. (Theatre Technical Training Scheme)にて、エグゼクティブ・ディレクター（非常勤）、ROH ディベロプメント Ltd. と ROH トレーディング Ltd. でエグゼクティブ・ディレクターを務める。

プロフィール

秋島 百合子

ロンドン在住フリー・ジャーナリスト。1950年東京生まれ。青山学院大学英米文学科卒。

ウォール・ストリート・ジャーナル東京支局勤務。

75年から78年まで、ロンドンBBC日本語放送から日本に向けて放送。

85年に『この世はすべて舞台』で第1回朝日ジャーナル大賞優秀賞受賞。

現在、『音楽の友』誌海外レポート欄のレギュラー筆者をはじめ、朝日新聞、演劇・音楽雑誌、劇場プログラムなどに多数寄稿。

演出家蜷川幸雄氏の英国公演で「マクベス」「メディア」「近松心中物語」「ハムレット」「近代能楽集」「タンゴ、冬の終わりに」「ペール・ギュント」「ペリクリーズ」「リア王」の通訳を手がける。

著書

『イギリスの女性たち』（サイマル出版会）

『シェークスピア式イギリス診断』（朝日新聞社）

『アナウンサーはなぜ消えたのか』（草思社）

『メリー・ポピンズは生きている』（朝日新聞社）

『パブリック・スクールからイギリスが見える』（朝日新聞社）

別冊太陽『蜷川幸雄の挑戦』（平凡社）

プロフィール

垣ヶ原 美枝 (吉田美枝)

演劇専門の通訳として、ロイヤル・シェイクスピア劇団、ウィーン国立歌劇場、ロイヤル・オペラハウスなど多くの舞台芸術団体の来日公演にたずさわる。アメリカのセントルイス・オペラ劇場が三木稔作曲のオペラ「じょうり」を上演した際にはスタッフとしてセントルイスでの初演、日生劇場での来日公演にも参加。

また英米の演出家が日本で演出する際の通訳、演出家アシスタントとして多くの作品に関っている。「ラ・カージュ・オ・フォル」「レ・ミゼラブル」「ミス・サイゴン」(以上、東宝)「リアルシング」「グリークス」(以上、文学座)。「アマデウス」「マクベス」「桜の園」「スカイライト」「グッド」「危険な関係」「サド侯爵夫人」(以上、松竹)。パルコ劇場公演「スラブ・ボーイズ」、T P T公演「テレーズ・ラカン」「背信」「エリーダ ～ 海の夫人」、「ヘッダ・ガブラー」「双頭の鷲」「薔薇の花束の秘密」「蜘蛛女のキス」。銀座セゾン劇場公演の「エンジェルズ・イン・アメリカ」など。

「薔薇の花束の秘密」再演を演出。「ラ・カージュ・オ・フォル」をリンダ・ヘイバーマンと共同演出。

吉田美枝の筆名で戯曲の翻訳も行っており、既に上演された作品にはミュージカル「赤毛のアン」「ゴールデン・ポンドのほitori」「オーファンズ」「M・バタフライ」「グリークス」「ペンテコスト」「花園に来た人」「お家の大事」「危険な関係」「桜の園」「ブラッド・ブラザーズ」、音楽劇「ハムレット」「スカイライト」「若き日のゴッホ」「エンジェルズ・イン・アメリカ」「テレーズ・ラカン」「エリーダ ～ 海の夫人」「背信」「ヘッダ・ガブラー」「双頭の鷲」「チェンジリング」「薔薇の花束の秘密」「南太平洋」「蜘蛛女のキス」「34丁目の奇跡」「ヴァニティーズ」などがある。

なお翻訳戯曲のうち、「M・バタフライ」「リアルシング」「グリークス」「テレーズ・ラカン」は劇書房より、ドン・デリーロ作「白い部屋」は白水社、「エンジェルズ・イン・アメリカ」第一部は文芸春秋社より刊行。改訳版「グリークス」(2000年)とパッツィ・ローデンバーグによるボイス・トレーニングの本「話す権利」(2001年)も劇書房より刊行。

第一回湯浅芳子賞、日本演劇興行協会賞、ニッセイ・バックステージ賞受賞